

平成30(2018)年度 「住まいとコミュニティづくり活動助成事業」 (地域・コミュニティ活動助成) 活動中間報告

団体名

特定非営利活動法人 西会津国際芸術村

活動のテーマ

旧旅館を人が集う複合的コミュニティ空間として再生

9月までに達成できた事項(箇条書き)

・ギャラリー床の制作

石材を使ってギャラリーの床枠を制作した。なお、町内の建築業の紹介で、床枠に使用する石材は無償で提供していただいた。

・土壁ワークショップ

町内の左官に精通したメンバー指導のもと、東京からきた大学生を交えて、土壁塗りをワークショップ形式で行った。材料費や講師謝礼を本助成金から拠出した。

・テーブル制作

岩手に住む蒲生館のオーナーが定期的に西会津を訪れ、蒲生館に配置予定のテーブル製作を行った。本費用はオーナーの自主財源であり、助成金は充てていない。

・建具制作

建物の入り口に使用する建具の製作を行った。建具に使用するガラスの購入費用に本助成金を使用している。

・各工事業者による現地調査、見積

プロジェクトメンバーによる DIY だけでは対応できない改修箇所は専門業者に委託することとした。10月1日以降、随時作業に着手する予定である。

今後の活動予定と平成31年3月末時点の達成予定項目

平成30年11月23日(金・祝)に第1次オープンを予定。

オープンに向けて以下の残作業を予定

- ・ギャラリー床の砂利敷き
- ・ギャラリー壁の塗装
- ・ギャラリーのライティングを目的とした照明器具の調達
- ・建具およびテーブルの搬入
- ・電気工事および水道管の撤去工事

オープン後、平成31年3月末までにアーティストによるワークショップ・展示を2回実施予定。

活動中間ビジュアル報告

■団体名：特定非営利活動法人 西会津国際芸術村

■活動のテーマ：旧旅館を人が集う複合的コミュニティ空間として再生

■助成対象活動に至った理由や背景：

本活動のフィールドである野沢地区は、旧越後街道の宿場町として栄えた歴史があるにも関わらず、現在では高齢化が進み、空き家も増え、地域のコミュニティが崩壊しつつある。その崩壊に歯止めをかけるためにも、高速道路のインターにも近く、西会津町の入り口とも言える野沢地区に、地域の人々が集まれる場所を創出することで町の賑わいを取り戻すことができると考えている。

本活動対象とした蒲生館は、多い時で二千人／日の来客のある道の駅西会津から徒歩距離にあり、それらの客層はこれまで町中を訪れることなく町を離れてしまっていたが、この本活動により、町中へ誘導する新たな契機を創出できると考えている。そのために、本団体がこれまで取り組んできたアート活動の拠点としての要素を加えることで、多様な人々が集まる場所として発展させていきたい。

また、本事業が空き家改修による地域活性の事例となることで、今後の空き家活用プロジェクト推進への信頼・理解を得ることができ、連続的な地域活性の連鎖を創出することに寄与することができると考えている。

■9月までの活動の進捗状況：

・土壁ワークショップ

町内の左官に精通したメンバー指導のもと、東京からきた大学生を交えて、土壁塗りをワークショップ形式で行った。材料費や講師謝礼を本助成金から拠出した。



・ギャラリー床の制作

石材を使ってギャラリーの床枠を制作した。なお、町内の建築業の紹介で、床枠に使用する石材は無償で提供していただいた。



・テーブル制作

岩手に住む蒲生館のオーナーが定期的に西会津を訪れ、蒲生館に配置予定のテーブル製作を行った。本費用はオーナーの自主財源であり、助成金は充てていない。



・建具制作

建物の入り口に使用する建具の製作を行った。建具に使用するガラスの購入費用に本助成金を使用している。



■今後の活動予定：

平成30年11月23日（金・祝）に第1次オープンを予定。オープンに向けて改修作業を進める予定
また、オープン後、平成31年3月末までにアーティストによるワークショップ・展示を2回、実施を予定している。